

大学創立 50 周年記念「新春 吹奏楽の祭典ー地域・復興支援と音楽ー」を開催いたしました！

去る 2015 年 1 月 10 日（土）、大学創立 50 周年記念「新春 吹奏楽の祭典ー地域・復興支援と音楽ー」を大学 学生会館大ホールにて開催いたしました。この催しは、大学創立 50 周年事業の一環として行われたもので、昨年に引き続き第 2 回目の開催となり、当日はご来賓、地域住民の方、出演校の保護者の方を含め約 390 名の方に来場いただきました。また今回の「地域・復興支援と音楽」をテーマに併せ、ロビーにて本学の学生による、東日本大震災への支援活動の様子がパネル展示により紹介されました。



今回は 2 部構成で、第 1 部「茨木市内 中・高等学校吹奏楽部による演奏」では大学、追手門学院両中・高等学校の吹奏楽部に加え、茨木市内から茨木西高等学校、福井高等学校、関西大倉中・高等学校が参加、それぞれが個性豊かな、熱のこもった演奏を繰り広げました。



茨木西高等学校



福井高等学校



関西大倉中・高等学校



追手門学院大学



追手門学院大手前中・高等学校



追手門学院中・高等学校

そして、第1部の最後には追手門学院大手前高等学校の卒業生でいらっしゃる作曲家の上田益先生の作詞・作曲による「大切なふるさと」を、今回の演奏会のために上田先生に許諾をいただき編曲を担当した追手門学院中・高等学校の榎木愉美子教諭の指揮、同校吹奏学部の伴奏により、声楽家の岡部夕紀子先生の歌唱指導のもと会場全体で合唱しました。この「大切なふるさと」は上田先生が自然災害や戦災で傷ついた地域を中心に取り組んでおられる「レクイエム・プロジェクト」から生まれた楽曲で、サプライズで上田先生ご夫妻もご来場いただいた中、会場が一体となって歌われ、今回のテーマである「地域・復興支援と音楽」を体現した形で第1部が締めくくられました。



上田 益先生



客席とステージが一体となり合唱

第2部「地域・復興支援と音楽」のトークステージでは、本学院大手前中・高等学校の佐藤和宏教諭の司会により、出演校の代表者へのインタビューが行われました。佐藤教諭の軽妙な話術に導かれ、各校第1部の演奏同様トークでもそれぞれの個性を発揮していました。続いて作曲家・音楽評論家で、今回の催しのプロデュースを行った、門田展弥客員教授から「”地域・復興支援と音楽”について」と題し、音楽が復興支援に果たす役割について解説がありました。



トークステージ



門田 展弥客員教授

そして最後のプログラム、クラシックステージ「アンサンブルによる鎮魂と祈り」では、ロムアルド・バローネ氏をはじめとした5名のプロの音楽家による演奏が披露されました。門田客員教授とモーツァルトの楽曲が演奏されましたが、心が洗われるような美しい音色に、埋め尽くされた会場は静寂に包まれ聴き入っておられ、まさに「鎮魂と祈り」として響いていました。



左より袴田 さやか氏 (vn)、小山 佳子氏 (vn)、
ロムアルド・バローネ氏 (cl)、飯田 真基氏 (va)、
半田 ひろ美氏 (vc)



ロムアルド・バローネ氏 (cl)

閉会式では、出演校に記念品のメトロノームが授与され幕となりました。



各校への記念品授与

追手門学院大学では 2016 年の大学創立 50 周年に向けて、今後も記念事業を次々と展開してまいりますので、ご期待ください！